

斑点米カメムシ類情報第3号（イネカメムシ）

令和5年8月18日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

斑点米カメムシ類のうち、特にイネカメムシの発生が多い状況です

1 発生状況

8月上旬に県内47地点94ほ場で行った本田における20回すくい取り調査の結果は表1のとおりでした。種類別では特にイネカメムシの捕獲数が平均2.15頭（平年0.52頭、前年1.45頭）と、過去10年間と比較して最も多い状況でした。

表1 斑点米カメムシ類の8月上旬本田すくい取り調査結果（1ほ場あたりの平均捕獲虫数）

種類	発生量	本年	平年
ホソハリカメムシ	やや多	0.24	0.18
クモヘリカメムシ	並	0.48	0.57
シラホシカメムシ類	並	0.06	0.07
イネカメムシ	多	2.15	0.52
カスミカメ類	やや少	0.47	0.94
ホソナガカメムシ類	並	0.00	0.05
ミナミアオカメムシ	並	0.19	0.30
合計	やや多	3.60	2.63

（平年：平成25年～令和4年の平均値）

2 防除対策

イネカメムシは、出穂直後から穂を加害して不稔穂を発生させます。今後、出穂期を迎えるほ場では発生に注意しましょう。特に、周囲のほ場でイネカメムシの発生が多い場合は、ほ場の発生状況をしっかりと確認しましょう。

イネカメムシに対する防除は、その他の斑点米カメムシ類と比べて加害する時期が早いため、出穂期に効果が表れるように薬剤防除しましょう。その後も発生が多い場合は、7～10日後に再度防除を行いましょう。

その他の斑点米カメムシ類に対する防除対策については、8月1日発表の「令和5年度病害虫発生予察注意報第6号」を参照してください。

表2 イネカメムシに対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	本剤の使用回数	IRACコード
トレボンEW	収穫14日前まで	3回以内	3A
キラップフロアブル	収穫14日前まで	2回以内	2B
スタークル液剤10	収穫7日前まで	3回以内	4A

成分ごとの総使用回数に注意しましょう。

IRACコードは殺虫剤の作用機構による分類を示します。

IRACコードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/mechanism_irac03.pdfを参照しましょう。

薬剤の使用に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。